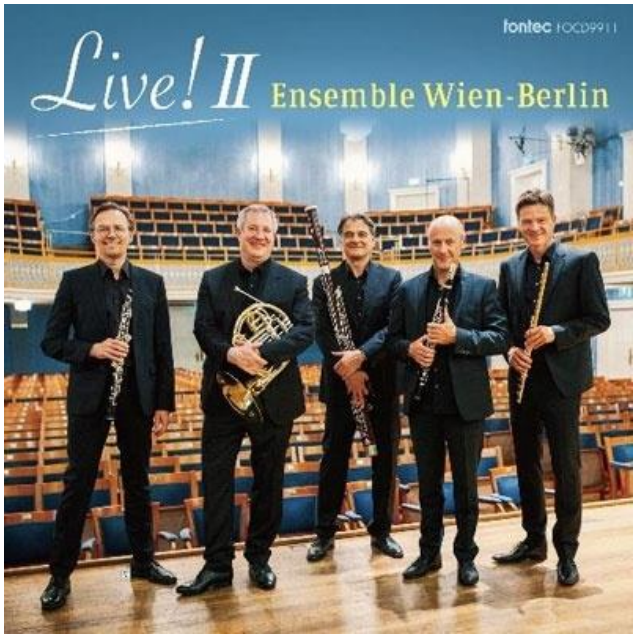
ディスコグラフィー収載

ディスコグラフィー【2024No.198】(HP 収載)

分類：CD
作曲家：ドヴォルザーク(シェーファー編) 他
曲名：弦楽四重奏曲 第 12 番 ヘ長調 Op.96 「アメリカ」他
演奏：アンサンブル・ウィーン=ベルリン
発売：**フォンテック**
No. ：FOCD9911
概 要 ：
【演奏】
アンサンブル・ウィーン=ベルリン
　フルート：カール=ハインツ・シュッツ
　オーボエ：ジョナサン・ケリー
　クラリネット：ゲラルド・パッヒンガー
　ファゴット：リヒャルト・ガレール
　ホルン：シュテファン・ドール
【収録】
モーツァルト(レヒトマン編):セレナード 第 12 番 ハ短調 K388(384a)
「ナハトムジーク」
セルヴァーンスキ:木管五重奏曲 第 1 番
ハース:木管五重奏曲 Op. 10
ドヴォルザーク(シェーファー編):弦楽四重奏曲 第 12 番 ヘ長調 Op.96
「アメリカ」(木管五重奏版)
1983 年、ウィーンとベルリンの名門オーケストラの首席奏者たちによって結成された木管五重奏団。ウィーンでのデビュー以来、世界各地の主要音楽祭から熱狂的に迎えられ、たちまち“史上最高の木管五重奏”との評価を得た。1999 年に創設メンバーのライスターとヘーグナーに代わって、トイブルとドールが加入。メンバーは、ウィーン・フィル首席奏者のヴォルフガング・シュルツ (fl)、2001 年までベルリン・フィル首席奏者のハンスイェルク・シェレンベルガー (ob)、ウィーン・フィル首席奏者のノーベルト・トイブル (cl)、ウィーン音楽アカデミー教授のミラン・トゥルコヴィッチ (fg)、ベルリン・フィル首席奏者のシュテファン・ドール (hr)。



この CD は、研究室日誌 10 月 7 日で報告したアンサンブル・ウィーン=ベルリンの演奏会に行って求めてきたもので、当日の演奏曲目がそのまま収録されており、2024 年 6 月 6 日ウィーン・コンツェルトハウスでのライヴ録音で、LIVE II と題されています。再生は EMT981 の次の経路で行い、EMT981 のトレイには CD アンチスタティックを貼っています。また、EMT981 には GMP クロックを入力し、仮想アースの Crystal EpY をアースポイントにセットしています。

EMT981→【バランスアナログアキュライザー】→TruPhase→【XRT リベラメンテ】

最新のライヴ録音であり、EMT981 の再生経路のこれまでの諸対策や直近の CD アンチスタティックの効果で、5 人の奏者の演奏技量や楽器の音色など、驚くほど演奏会の雰囲気を再現してくれています。異なる点と言えば、当日のホールの席と収録のマイクの位置の違いでしょうか。当日ホールの最前列中央で聴いていれば、さらに CD 再生も似通っていたかもしれません。

ウィーンとベルリンの首席奏者クラスによって結成された最高峰の木管 5 重奏の演奏をオーディオで再現しようとするのは決して生易しいことではありませんが、上記の対策の積み重ねの効果が如実に現れています。

個々の演奏の印象は、研究室日誌 10 月 7 日の報告のとおりで、付け加えることはありません。

以上